

## 欧州連合都市間国際連携プロジェクトへの参加について

EUが実施する国際都市間協力(IUC : International Urban Cooperation)プロジェクトに参加申請し、2カ年の間フィンランドのトゥルク市と環境面を中心とした交流を行うもの

### IUCプロジェクトについて

- EUが2017年度から2020年度までの予定で開始した国際交流支援事業
- **交流都市間で取組分野や課題を定め、相互訪問、会議・セミナー等を通じて問題解決の取組みや成功事例について学び合い、課題に取り組むためのアクションプランを作り上げるもの**
- EUが最低18か月間、都市の相互交流に係る経費を支援
- IUC日本事務局は名古屋大学、国内での公募選考作業は国土交通省都市局も協力
- これまで2回の公募が行われ、日本では8都市が参加

## IUC参加都市

- 世界66ペア132都市(2019年3月時点)
- 日本の参加都市とその協力相手およびテーマは右表参照

## 2019年の都市選定

- フィンランドのトゥルク市とフランスのマルセイユ市が新たに参加を希望
- IUC日本事務局で推薦都市を調整中  
(マルセイユ市は姉妹都市交流をしている神戸市を推薦予定)

	都市	EU都市	協力テーマ
第1回選定 2017年10月 協力開始	横浜市	フランクフルト市 (ドイツ)	スマートシティ
	郡山市	エッセン市 (ドイツ)	クリーンテクノロジーと 再生可能エネルギー
	弘前市	ドノスティア・サン セバスチャン市 (スペイン)	建物の再生とエネルギー
	一宮市	イオアニナ市 (ギリシャ)	持続可能なモビリティと 交通
	生駒市	アンコーナ市 (イタリア)	クリーンエネルギー、 社会的包摂、健康都市
第2回選定 2018年6月 協力開始	所沢市	ブラチスラバ市 (スロヴァキア)	気候変動への適応、都市・ 自然に根差した解決策、ス マートエコシティの開発
	豊田市	グルノーブル・アル プス都市圏 (フランス)	スマートシティ
	鎌倉市	ウメオ市 (スウェーデン)	スマートシティ、社会的 包摂、持続可能な開発目 標 (SDGs) の統合

SHINTOSHI Vol.72 No.8 2018

## 本市へのアプローチ

令和元年5月22日

環境省からトゥルク市との環境面を中心とした交流について、すでに参加意向を持つ小布施町と共同での参画の検討依頼

# トウルク市について

## 1 基本情報

- フィンランド共和国南部に位置し、首都ヘルシンキから約170km
- 2016年末時点の自治体人口は187,564人、フィンランドで6番目の規模
- 市域306.41 km<sup>2</sup>（陸上245.7km<sup>2</sup>、水面60.71m<sup>2</sup>）
- フィンランド最古の町。トウルク港はフィンランド有数の商港・フェリー港
- フィンランドの主な公用語は、フィンランド語。英語でコミュニケーション可能



トウルク市の位置

## 2 環境政策

- **2040年までに「カーボンニュートラル」「ゼロエミッション（廃棄物を出さない運動）」都市を目指す。**2018年時点で、木質バイオマス、太陽光、都市ごみ、風力などの再生可能エネルギーの割合は50%以上
- エネルギー需要の56%が暖房で、コージェネ（熱と電気の併給）などによる地域暖房のエネルギー効率向上に注力
- **トウルク市自身が地域電力会社（熱供給も含む）を運営している。**



トウルク市の街並み

# 長野市が本事業に取り組む理由

## 1 市の課題解決のための情報収集

- フィンランドは、豊富な森林資源を背景に、エネルギー源の約1/4を木質バイオマス燃料で賄っているなど環境先進国であり、**トゥルク市は、ゼロエミッション（廃棄物を出さない運動）を目指す**同国でも環境先進都市
- **トゥルク市が交流テーマとしてサーキュラーエコノミー（循環型経済）、地域循環共生圏等を希望**しているのに対し、本市にも関連する事業として、ごみ発電からの電力購入モデル（H31～）、鬼無里の湯薪ボイラー（H29～）や、民間事業者の木質バイオマス発電とその電力の活用などがあり（P.8参照）、**本市に有意義な交流が期待**できる。
- **本市としては、長野市総合計画にも位置付ける木質バイオマス利用を中心に交流を進めたい。**トゥルク市の優良事例や課題の共有を図ることで、**本プロジェクトから現状の課題の解決や新たな事業の創出等の可能性が期待**できる。  
今後森林環境税及び森林環境譲与税を原資とした森林整備により発生する間伐材などの有効活用は、本市にとって有益なプロジェクトとなること、全国的なロールモデルの可能性も考えられる。
- **また、環境問題をきっかけに農林業や商工観光業など、幅広い分野へのビジネスへの展開が期待**できる。

## 2 世界へ向けた情報発信

- オリンピック開催都市としての知名度を生かすとともに、国際社会において環境問題に積極的に取り組む姿をPR

## 3 連携中枢都市圏への効果波及

- **本事業の成果を長野地域スクラムビジョンの「バイオマス利活用に係る調査・研究」「地域木質バイオマスの利用推進」等の既存事業において活用し、効果の波及を図る。**

## 4 職員の人材育成

- 将来への投資として、職員の人材育成の効果が見込める。

## 5 EUからの支援

- 上記効果が得られる本事業を、EUの財政的支援を得て実施することができる。

## 2年間の事業内容(予定)

- ◆ **トゥルク市、小布施町及びEUと協議** (令和元年7月～11月頃)
  - ・ 交流テーマの決定
  - ・ スケジュール
- ◆ **トゥルク市訪問** (時期未定、早ければ令和元年10月頃)
  - ・ 本市から3名程度
- ◆ **国際会議**
  - ・ **東京** (時期未定)
  - ・ **ブリュッセル(ベルギー)** (2回：令和元年11月, 令和2年11月頃)
  - ・ 本市から2名
- ◆ **トゥルク市来訪** (時期未定、早ければ令和2年2月頃)
  - ・ 4名程度。視察、会議、歓迎レセプション
- ◆ **アクションプランの取りまとめ** (令和2年度中)

## 概算費用

- ① 相互訪問3名分\*及び国際会議1名分\*について、渡航費及び現地宿泊費、通訳の経費をEUが負担。(旅費はEUが直接支払) \*人数はEUで調整中のもの
- ② **本市の概算支出 2か年合計 約240万円** \*参加自治体の予算を参考に算出。

支出	金額 (円)	備考
トウルク市訪問 (令和元年10月又は令和2年5月頃) 出席: 3名程度	約28万	左記の他、EUが約150万円支出
国際会議@東京 (時期未定) 出席: 2名	約4万	旅費
国際会議@ブリュッセル (令和元年11月, 令和2年11月頃) 出席: 2名×2回	約128万	左記の他、EUが約100万円支出
トウルク市来訪 (令和2年2月頃又は令和2年5月頃) 受入: 4名程度	約80万	レセプション費用、自動車借料
合計	約240万	

## 予算対応

令和元年度

- IUC日本事務局から参画の可否について早期の回答を求められていること及びスケジュールが決まらないため、当面は流用で対応
- 必要に応じ、12月議会で補正

令和2年度

- 当初予算で対応

## ① ごみ発電からの電力購入モデル（H31～）

市立小・中学校、高校で使用する電力を3月から本格稼働する「ながの環境エネルギーセンター」で発電する電力で賄う。電気の大切さやごみ処理など、児童・生徒への身近な環境学習に生かす。また、CO2排出量や電気料金削減にも資する。

## ② お山の発電所からの電力購入（H28～）

地域の間伐材等をバイオマス燃料とする「いづなお山の発電所」の電力を、市内金融機関等とともに長野市役所第二庁舎で使用する電力地産地消モデルにより、里山整備の促進、地域資源の活用、CO2排出量の削減を図る。

## ③ 鬼無里の湯薪ボイラー（H29～）

地域のNPO法人が、間伐材、支障木等を伐採・搬出し、薪に加工・保管する薪ステーションを運営しており（H25～）、その薪を鬼無里の湯薪ボイラーで使用する（H29～）ことで、里山整備の促進、地域資源の活用、NPOの活動の安定化、CO2排出量の削減を図る。

## ④ 資源作物ソルガム活用調査事業（H25～）

資源作物であるソルガムは、実（み）はノンアレルギー等の特徴を生かした食物に、茎葉はキノコの培地に、使用後の培地はエネルギーになるなど、多段階の活用が図れるほか、省力栽培が可能である。栽培拡大により耕作放棄地の解消を図るほか、食品、エネルギー利用等による地域活性化を目指し、信州大学と本市の共同研究に取り組む中、実の食品利用を中心に徐々に社会実装が進む。

## ⑤ 大谷地湿原保全調査・再生事業（H26～）

妙高戸隠連山国立公園内にある大谷地湿原の繁茂したヨシの被圧などによる湿原の乾燥化や植生の変化が懸念され、地元関係者等とともにヨシの刈取りと搬出、湿原内の溪流路の変更など、保全活動を実施し本来の自然の復元を図る。併せて、刈り取ったヨシの活用方法（茅葺屋根の屋根材、農作物の堆肥等）も検討し試験的に実施している。また、観光地としての知名度を上げ交流人口の増加を目指す。